

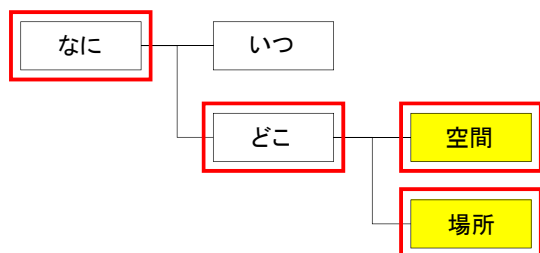
空間分析批判

政治・空間・場所 第4章
第2部 空間・場所・領域

なぜ地理学は「重要」か？

- 大学生がイラクや北朝鮮の位置を知らないから(数年前の新聞記事)⇒地政学的知識
- 物体や事象(=なに)の生起・存在を規定するもの
- いつ=時・時間(歴史学)
- どこ=場・空間
- 「場」の性質→地理学
- 二つの「場」=空間と場所

2



3

「空間」の意味と把握

1. そこを満たしている固体や液体が何も無い場所(広がり)。
2. (物質が存在し種々の現象が起こる場所としての)上下・左右・前後の三次元にわたる無限の広がり。三次元空間。
3. [数学で]直線・平面・「空間2」の総称。順に、一次元・二次元・三次元の空間と呼び、さらに四次元以上の空間にまで拡張される。

4

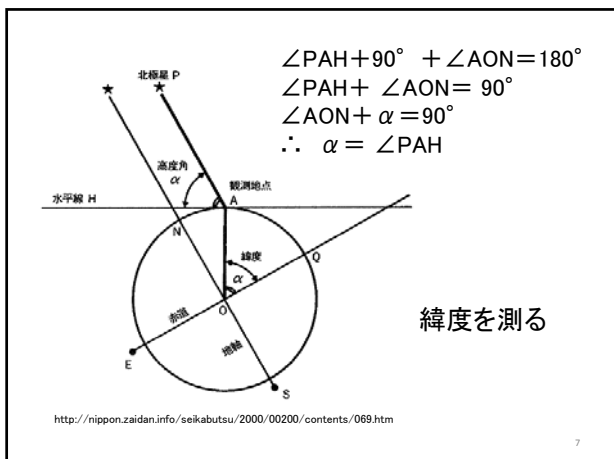
絶対空間・絶対位置という考え方

5

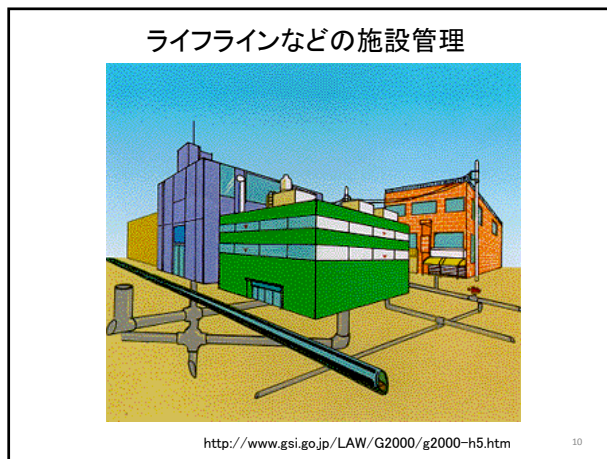
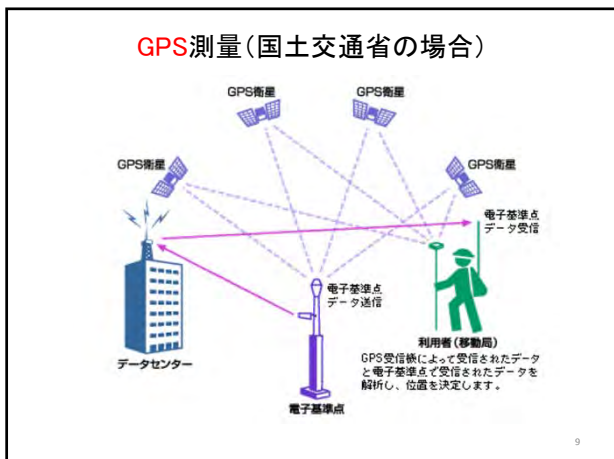
プトレマイオスの世界図(1482年再版)
=世界各地の位置を経緯度で示す



6



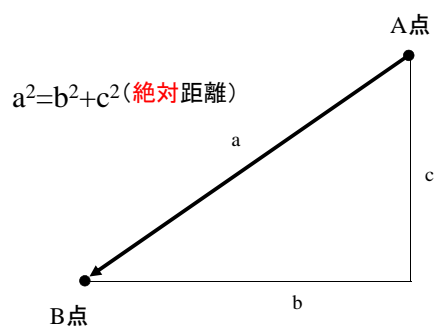
- かつては
天体観測。北極星、南十字星、太陽、月食。
- いまは
GPS(全地球測位システム)衛星



- つまり、
- 変化したもの
位置測定技術、精度、情報の汎用性の飛躍的進歩
 - 変化しないもの
位置は経緯度という座標によって示される

- そこで、
- こうした抽象化された経緯度座標で計測・把握・表示されるような(物理的)地表の一部を空間、特に絶対空間と呼んでみましょう。
 - 特定の経緯度で示される位置は地球上に一点しかない(絶対位置)。

ユークリッド空間(絶対空間)

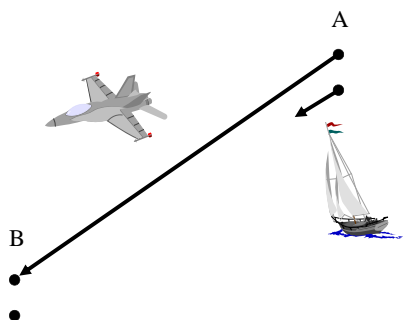


13

- 「空間」と称されるものの属性
 - 物理的な量をもつ = 「長さ」、「広さ」、「大きさ」
 - したがって、客観的に計測できる
 - ただし可変的な性質をもつ

14

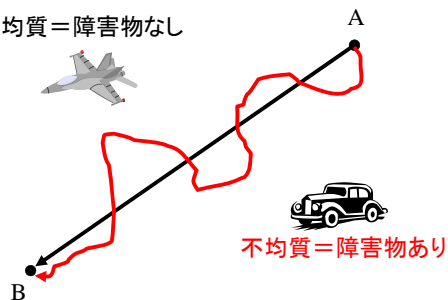
多様な距離 = 時間距離・費用距離



15

均質な空間と不均質な空間

均質 = 障害物なし



不均質 = 障害物あり

16

近代化・近代科学技術の 発達と空間

- 時間による空間の「絶滅」
 - 距離の摩擦が減少、空間が均質化
- 空間の機能的・効率的利用
 - 空間の可変性増加 = 空間は生産・改変しやすくなる

17

小さくなる世界(時空間圧縮)

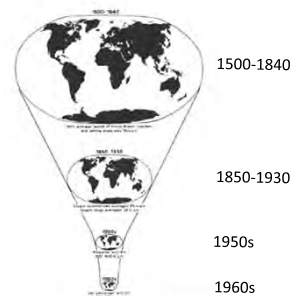
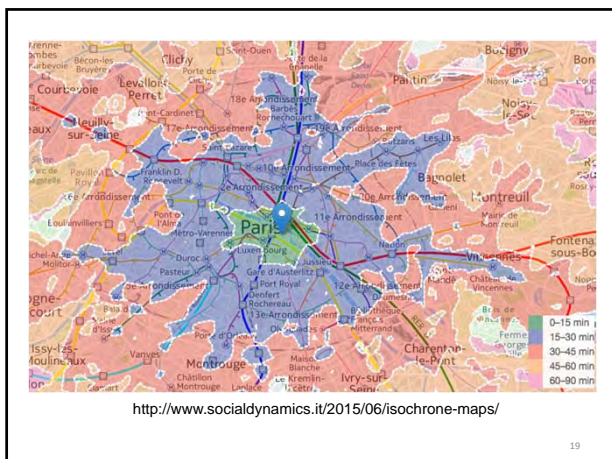


Plate 3.1 The shrinking map of the world through innovations in transport which "annihilate space through time".

18



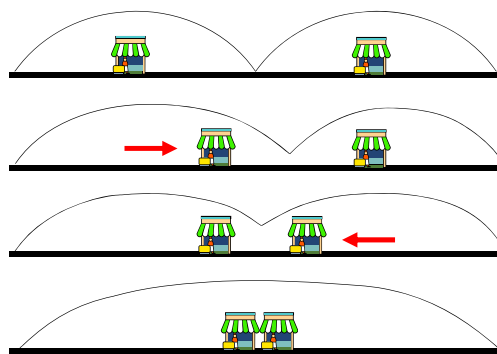
空間の三態(三つの捉え方)

- 絶対空間＝地球上の固定された位置
- 可変的な空間＝距離の意味・伸縮
- 相関空間＝空間を人間との関係で捉える
 - －空間は人間の営為と切り離して考えられるか？
 - －そのような客観的な物理的空間として存在しているか？

地理学における空間分析の展開(1)

- 地誌学の伝統
 - －地域の個性を記述(所変われば品変わる)
 - 「科学」への指向性(1950年代～70年代)
 - －客観性・法則性・予測可能性を求める
 - －数理的モデルの構築(計量革命)
- ↓
- 自然や社会に存在する空間秩序の発見

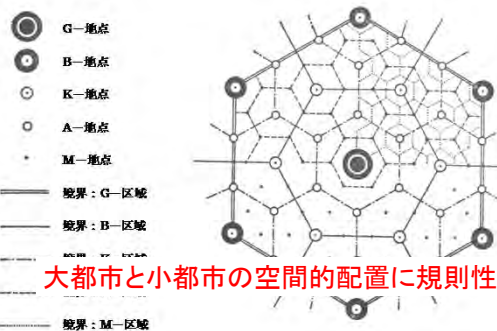
海岸のアイスクリーム売り:ホテリングモデル



地理学における空間分析の展開(2)

- 三つの前提
 - －海水浴客にアイスクリームのメニューに好みがない。
 - －海水浴客は近い店でアイスクリームを買う。
 - －海岸の海水浴客の混雑は均等である。
- 商店の立地戦略と集積のメカニズム

中心地理論



GISを使った売上予測モデルの例



● どれくらいの売上が見込めるのか?
 ● 自店の実勢商圏エリア、シェア、特性は?
 ● 総合店 or 増床により、売上はどう変わるか?
<http://www.jps-net.com/gis/Aoki-Model.html>

空間分析への批判

- 人間中心・社会変革の視角(1970年代頃～英米で)
 - 公民権・反戦・学生運動などを経て社会矛盾への学問的接近
- 空間分析での**人間不在**。空間的属性だけで現象を説明しようとする(**空間分離主義**)。
- 四つの潮流(知覚・行動、人文主義、マルクス主義、ポストモダン・批判的)

空間分離主義

- 空間分析における人間＝合理的**経済人**
 - 合理性という公準によってのみ行動する
- サック(1974)
 - 物体や事象(商品や消費者)の存在に関する理論から独立して、その空間的属性(距離＝店への近さ)だけを理論化できるか
 - 物体や事象の属性はその時間的・空間的属性(いつ、どこにあるか)と不可分
 - 物体や人間はビリヤード盤上の球ではない

知覚・行動の地理学

- 現実的な人間の認知や行動を科学的(心理学的)に分析
- **メンタル・マップ**(認知地図)研究
 - ↓
 - 人間が認知する空間は均質ではなく、いちじるしい歪みをもっている。**

メンタル・マップの例



Fig 5.1 The ignorance surface from North Dakota

人文主義地理学

- 特定の場所に対する**個人の(主観的・情緒的な)愛着**を重視
- 人間によって「**経験される空間**」
- 空間に対する「**場所**」
- 政治地理学にとって重要な見方
 - 次週のテーマ

マルクス主義地理学

- 空間および自然(環境)と人間との関係という地理学的テーマについて(経済的)法則性・理論を究明。
- 空間や環境における**社会矛盾**を明らかにする。
 - ↓
 - 資本主義の止揚**

31

ポストモダン(批判)地理学

- 地理学での人間回復を指向する三つの流れを包含する。1990年代から。
- **ポストモダニズム** = 世界に通底する普遍的原理を否定。**多様性**を尊重。近代社会のあり方(**モダニズム**)を批判。
 - ↓
 - 近代社会の規範から疎外された人々(女性、少数民族、同性愛者、子ども、老人、障害者etc.)とそういう人々に関わる空間や場所を対象。

32

空間の生産

- 空間の歪みを発生させるもの
 - 人間による空間の効率的利用そのもの
 - 近代化→時空間圧縮
 - 社会は不均等に变化→貧富の地域格差
- ルフェーブル
 - 空間(例:用途地域、都市)は社会的な生産物
 - 生産された空間はそこに関わる**人間の知覚や実践に影響**する
 - そうした空間を生産する(**資本制**)**社会を再生産**

33